

令和3年度が始まり、はやくも2か月が経とうとしています。

今年は、3歳児8名、4歳児10名、5歳児18名の合計36名でスタートしました。昨年同様、コロナ禍で新年度を迎えましたが、引き続き対策を徹底し、工夫しながら、子どもたちには今までと変わらぬ体験や教育を行えるようにしていきたいと思えます。



## うらやまにお散歩に行ってきたよ！

うらやまの緑が青空に一段と生える季節がやってきました。

4・5月はお天気の良い日が多く、絶好のお散歩日和。うらやまに何度もお散歩に行きました。

初回から3・4・5歳児の『なかよしペア』（異年齢児での3人組です。3年間固定メンバーにすることで、異年齢ならではの刺激や憧れの経験をねらいとしています。）で出かけました。年長さんは、入園したての年少さんの手を引きながら、「こっちだよ。」「見て、きれいなお花だね。」などと自然に話しかけていました。先生から言われなくても、周りの自然に目を向けて、素敵なものを発見したり、年少さんのゆっくりペースに合わせて誘導したり、と年長になった誇らしさと頼もしさを感じました。

うらやまには緑がいっぱいで、様々な花や蝶、テントウムシなどの虫を見つけ、体いっばいに春を感じて遊ぶことができました。

遊具の広場では、きれいな赤と緑の葉っぱを使って、その場でネックレスを作っていました。年長さんに作り方を教えてもらう年中さん。ここでも、良い刺激と経験をすることができました。園から近いからこそ、材料や道具を手軽に運んでその場で作る楽しさを味わうことができます。こんな素敵な『うらやま』があるのは、第一幼稚園の財産ですね！これからも大切にしていきたいです。



## ぼくたちがきれいにするよ！

4月のある月曜日、とても天気が良かったので、グリーン広場で遊ぼうとした年長さんたち。しかし、前日の強風で、グリーン広場は一面落ち葉だらけになっていました。すると、「葉っぱがいっぱいだね。」「きれいにする？」「ほうきで掃いたらいいんじゃない？」「先生、ほうき貸して！」と、会話が進み、なんと自主的にグリーン広場の掃除が始まりました。子どもって不思議なもので、ほうきやちり取りを手に、なんだか楽しそう。何でも楽しくしてしまうのが、遊びの天才、子どもたちの才能ですね。

そんなこんなで、落ち葉でいっぱいグリーン広場は、あっという間にきれいになりました。すぐに片づけの時間になり、結局遊ばせませんでした。きれいになったグリーン広場に満足したのか、掃除を遊びのように楽しめたからか、晴れ晴れとした笑顔で広場を後にした子どもたちなのでした。



落ち葉を一か所に集めて・・・



ちり取り係さん、  
お願いします。





## お母さん、ありがとう♡



年長児の作品



5月9日の『母の日』に向けて、子どもたちがプレゼントを作りました。先生たちの投げかけで、「お母さんは、黄色が好きなんだ。」「お母さんの髪の毛はくるっとしているんだよ。」「お母さんの優しいところが大好き。」など、一人一人が大好きなお母さんを思い浮かべながら作品を作っていました。誰かのために、何かをするって、とても大切なことなんです。そんな優しい心が確実に育っている子どもたちなのでした。

年少児の作品



年中児の作品



### 未就園児みみちゃん教室のお知らせ

- \* 未就園児のためのみみちゃん教室が始まりました。園児とのふれあいの機会も作りながら、毎回楽しい遊びを企画しています。
- \* 登録料や利用料などは全て無料です。
- \* 駐車場あり。エアコンも完備しています。
- \* 詳しくは、別紙「みみちゃん教室年間計画」をご覧ください。

みみちゃん教室に、ぜひ遊びに来てね。来られるときだけ遊びに来てくれればオッケーです！



### うらやまからのつづやき（園長のつれづれなるままに No.1）

「子どもは宝」「子どもは未来」「子どもは希望の源」を日々味わう幸せ

4月号を出さなかったのが、本年度初めての地域回覧板「一幼っ子だより」です。園長として赴任して3年目となりました小野誠です。本年度もよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスの新種株が猛威を振るい、第4波の真ただ中、皆様におかれましても、忍の一字でお過ごしのことと思います。

今回のお便りには、4月から本園での3つのエピソードを載せてあります。お読みいただいて、どのような感想をお持ちになりましたか？

私も、年中さんの保育室での私の感動したエピソードの一つ。

給食時の準備の時、園児たちは、乾いた小さなタオルを決められたケースに入れます。すべての子が揃うと先生方が、水で濡らしておしぼりにします。その乾いたタオルをケースへ入れに来た男児に、先に入れた男児が気を利かせて、入れやすいようにケースを差し出しました。

「〇〇くん、どうぞ」「◇◇くん、ありがとう」私の体を清涼な風が吹き抜けました。

4歳児で、このようなやりとりが自然な形で行われている。このような、瞬間に立ち会えた私は、本当に幸せです。私たち大人は、子どもの屈託のない、無邪気な言動に救われ、未来に希望を託すことができます。標題は、私の「子ども観」です。

**「三つ子の魂百まで」幼稚園教育は、次の小学校から始まる学校教育の基礎に当ります。遅まきながら、令和3年度も“うらやま縁”の絆をよろしくお願いいたします。**